

安心して生きがいを持って働き続けるために

きずな

発行：広島県労連
介護福祉労働者連絡会

〒732-0052
広島市東区光町2-9-24-205
TEL082-262-1550/
FAX082-261-5059

介護で心が疲れないためのコーチング



△ほめる大切さを語る丸山法子先生

介護は学びが得られる仕事

連絡会は、3月5日東区民文化センターで第4回学習交流会を開催しました。テーマは「介護で心が疲れないためのコーチング」講師は丸山法子先生。連絡会以外からも14事業所24人から参加があり、全体で54名が学習しました。

丸山先生から、「介護や医療は、人に向き合うしんどさはあるものの、相手を通じて学びが得られる自己成長の場であり、コミュニケーションの質が問われるすばらしい仕事です。そのなかで聞くスキルをあげる必要があります。大切なのは『何を話すか』より『どうやって話すか』です。質問するときは『あいづち』を引

き出し、『はい・いいえ』を引き出し、『選択肢から選んでもらう』など考えると、相手が答えやすくなる。人間は『視覚』『聴覚』『体感覚』のどれかをみて接するとうまくいくなど教わりました。

感想「元気を取り戻せそうです」

1対1で自分のあこがれの人を話すことや、その人をほめる「賞賛のシャワー」を浴びる心地よさなど、素敵な3時間を送ることができました。

「とても楽しく受講させていただきました。介護は対人援助の職種であり、決まったルールはありません。利用者一人ひとりと向き合い、それぞれの個性を引き出しながら、心地よい支援ができるようにしていきたいと思っています。」「利用者の人の中に、気持ちが寄り添わない方があって、何だか落ち込んだりしていた時期がありました。今日

習ったやり方でチャレンジしてみようと思いました。」「男性の利用者の方は苦手意識があるのですが、アーディンの法則を使って早速コミュニケー

ションをとりたいと思います」「最近仕事に疲れを感じていたので、また元気を取り戻すことができそうで、来てよかったですと思っています。」

医療・介護署名に子供たちも

広島県労連介護福祉労働者連絡会は、3月7日（月）11時より広島駅前東郵便局前で「安全でゆきとどいた医療・介護を実現する国会請願署名」に取り組みました。マイクをもった齊藤美加会長は、「雇用破壊が深刻化し、貧困と格差が拡大する中で、経済的理由から医療・介護から排除される人が増え続けています。社会保障への公費負担を増やし、公的保険で、行き届いた医療・介護

をすべての人に平等に保障させましょう」と署名への協力をよびかけました。この行動には10人が参加し、40分あまりで、子供たちも含め、62筆の署名が集まりました。



△介護署名を書く小学生

地域総行動で介護施設訪問

2月24日（木）ヒロシマ地域総行動が行われ、早朝宣伝、自治体・企業への要請、昼デモなど取り組まれ、のべ600人が参加しました。連絡会も昨年同様4事業所の訪問（以下以外にくすの木苑、ひばりを訪問）を行い、「介護保険改善はがき」と「安全でゆきとどいた医療介護実現署名」をお願いし懇談しました。

慈光園では、「処遇改善交付金を利用して非常勤を常勤にした。介護の請願は毎年政府に行っている。今回は広島が担当だが、『現在、介護の職業につきたくない人が多い。長くこの仕事を続けて行くことができるような処遇改善』を要望している。」と、地域に根ざした施設にしていくための苦勞も話されました。慈光園からは署名135筆、はがき21セットが早速返送されてきました。

ゆうゆうでは、「全老協で要求を出している。今年『人にうらやまれるような介護の処遇改善』という内容で出した」と話され、腰痛が多いなど職員の労働条件の厳しさも訴えておられました。

